令 和 元 年 5 月 1 7 日 (金) 国 土 交 通 省 関 東 地 方 整 備 局 河 川 部 河 川 環 境 課

### 記者発表資料

## 水辺でビジネスを作る人を増やす ミズベリング勉強会(8)開催

今回は「水辺でビジネスを作る人を増やす」をテーマに施策・取り組み事例について情報交換し、産官学金連携の可能性を創造します。

国土交通省では、「資源としての河川利用の高度化」に取り組んでおり、「魅力ある水辺空間の創出」方法として、水辺を活用したい人々の取り組みを積極的に支援することを方策としています。

また、河川空間を利用して、収益事業を促進する方策として「国土交通省生産性革命プロジェクト3 1」に「河川空間イノベーション」を位置づけ、官民が連携して河川空間を活用することで、地域の経済活動・社会活動の生産性が向上するように支援しています。

関東地方整備局では、多様な主体による取り組みを多角的に支援するため、地域活性化に取り組む高校生及び大学生対象の民間コンテスト。そこから生まれた学生起業家の講演を含め、多様な実施主体の事例紹介などを通じて、水辺利用の可能性を創造するミズベリング勉強会を開催します。

### 日時:令和元(2019)年6月20日(木)13:15~17:15

主催:国土交通省関東地方整備局

場所:さいたま新都心合同庁舎2号館大研修室5A

対象者:水辺の活用に関心のある法人・個人、地方公共団体、高校・大学関係者

参加費:無料(定員50名)

申し込み方法:別紙1(報道機関の方も申し込みできます)

- ※同日17:30大会議室501で関東RiverCycRingステージの説明会が開催予定です。
- ※勉強会受付時に関東RiverCycRingステージ説明会の受付も行える予定です。
- ※土木学会 継続教育(CPD)プログラム 認定:3.8単位

### ●関東のミズベリング

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/index0000007.html

#### 発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、都庁記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ 茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ、 刀水クラブ・テレビ記者会、千葉県政記者会

### 問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課 (代表)048-601-3151 FAX048-600-1379 課長 吉川 宏治 (よしかわ こうじ) (内線3651)

課長補佐 黒沼 尚史 (くろぬま ひさし) (内線3656)

## 関東ミズベリング勉強会(第8回)

日時:2019年6月20日(木)13:15~17:15 場所:さいたま市さいたま新都心合同庁舎2号館大研修室5A

主催:国土交通省関東地方整備局

### プログラム

1. 関東のミズベリング・プロジェクト

異業種コラボは可能性が広がる

【関東地方整備局河川環境課課長補佐 黒沼尚史】

2. 日本政策金融公庫の人材育成の取り組み

「高校生ビジネスプラン・グランプリ」次世代を担う若者の創業マインド向 上を目的として、開催している全国規模の大会

【日本政策金融公庫 創業支援部 ベンチャー支援グループ 濱田健志】

3. 大好きなことを仕事にしたい!

ファイナリストの女子高生が在学中に会社を立ち上げた。

【株式会社Recno代表取締役 望月まい】

4. 大学生観光まちづくりコンテスト

大学生を対象に実践的教育の場として、観光まちづくりを通じた地域活性化 プランを競う取り組み

【JTB 営業課 観光開発プロデューサー中島浩史】

5. 大学生観光まちづくりコンテスト多摩川ステージ2017

コンテスト後に産官学連携プロジェクトで大学の授業化

【東京国際大学COC室指導教員 宮口直人】

6. RiverCycRingProjectへの期待

旅して楽しいRiverCycRing

【関東地方整備局 河川部長 佐藤寿延】

7. パネルディスカッション

基調講演:「水辺の様な公共空間を使って稼ぐ」

講演・コーディネーター:

法政大学 現代福祉学部 • 人間社会研究科教授 保井 美樹

テーマ:「可能性を創造する人材を増やすには」

パネラー:

日本政策金融公庫創業支援部ベンチャー支援グループ 濱田健志

株式会社Recno代表取締役 望月まい

東京国際大学COC室指導教員。宮口直人

東京国際大学 多摩川循環型Δシステムチーム学生

関東地方整備局 河川部長 佐藤寿延

## ミズベリングって何?

https://mizbering.jp/whatismizbering

○ミズベリング(MIZBERING)とは、 水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクト

「水辺+RING(輪)」、「水辺+ING(進行形)」、 「水辺+R(リノベーション)」の造語

www.ktr.mlit.go.jp/ktr content/content/000633484.pdf

○基本コンセプト

<u>「つくる」だけでなく「育てる」</u>ことを視野に入れた持続可能な未来

- の創造に貢献する
  - ①まちにある川や水辺空間の賢い利用
  - ②民間企業等の民間活力の積極的な参画
  - ③市民や企業を巻き込んだソーシャルデザイン

## ミズベリング・プロジェクト概念図2

## 外から中から作戦

- ・水辺に新しい関心を集める
- ・水辺に新しいアイデアを育てる
- ・新しい水辺の関係を作る

▲ ▼ ・新しい水辺のビジネスや活動を育てる

▲ ▼

・新しい河川行政の人を育てる

市民

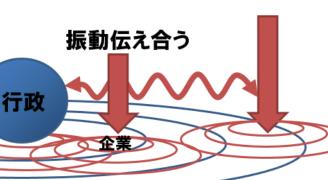
・水辺を楽しむ法人・個人

NP0

・水辺で街を変える法人・個人

・水辺で新しいビジネスを作る法人・個人 を増やす





## 水辺で新しいビジネスを作る人へ

## ~水辺をプラン検討の対象にして欲しい~

「人」:法人、個人

河川環境

(自然環境 + 生活環境)

ミズベリング・プロジェクト



※より良好な河川空間があれば ミズベリングの可能性が広がります。

水面

堤防

水辺活用の可 能性を創造す る取り組み

水田

国有地

民有地

### かわまちづくり

(かわ空間とまち空間が融合した良好な空間形成の取り組み)

生産性向上

### ①水辺を楽しむ人

②水辺で街を変える人

③水辺で新しいビジネスを作る人



高校生



JFC 日本政策金融公庫

創造九無限大

高校生ビジネスプラン・グランプリ



http://gaku-machi.jp/

大学生観光まちづくりコンテストより



## 日本政策金融公庫の人材育成の取り組み

(日本政策金融公庫HPより引用)

## https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/

高校生ビジネスプラン・グランプリとは

日本の未来、地域の未来を切り拓くビジネスプランを募集します!

活力ある日本を創り、地域を活性化するためには、次世代を担う若者の力が必要です。日本政策金融公庫は、将来を担う若者の創業マインド向上を目的に、全国の高校生を対象としたビジネスプラン・グランプリを開催しています。



## 平成30年度(第6回)のエントリー総数4,359件(396校)!

https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/6th\_result.html



## 大好きなことを仕事にしたい!

日本政策金融公庫HPより

https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/memorial magazine ex 06.html



起業事例

株式会社Recno 代表取締役 望月まいさん

大好きなことを仕事にしたい! ファイナリストの女子高生が オリジナルバッグで起業。

第5回高校生ビジネスプラン・グランプリのファイナリスト、 新潟の女子高生が、なんと在学中に会社を立ち上げた。 学業と事業の両立で多忙な日々を送る彼女に、 卒業を待たず起業に踏み切った理由や起業に込めた思いを聞く。

社名の「Recno」は、「Recreate a normal one」を略した造語。Recnoには、"ノーマルなものを活気づけて、新しい価値を生み出す"という意味が込められている。「斬新なものを生み出すばかりではなく、身の回りにあるものにワクワクする新しい価値を生み出すことができれば、私たちの生活はより豊かになると思っています」(望月さん談)



2018年1月7日、東京都文京区本郷の東京大学伊藤謝恩ホールで開催された、第5回高校生ビジネスプラン・グランプリの最終審査会。ファイナリスト10組のうち、唯一個人で参加した女子高校生がいた。望月まいさん(新潟清心女子高等学校、当時2年生)。たった一人で舞台に立ち、堂々とプレゼンテーションする姿は、実に印象的だった。

プランのタイトルは「ワンタッチで便利を作る~ファスナーを使ったカスタマイズ商品づくり~」。車いすのシート部分などのパーツをファスナーでつなぎ、色や柄を自由にカスタマイズするアイデア。画一的な仕様の車いすでも、エコで、しかもおしゃれが楽しめるというものだ。子どもの頃からいつか自分のファッションブランドを立ち上げたいと考えていた望月さんが、ファスナーでパーツをつなげるアイデアを思いついたのは中学2年生のときだった。

「その頃、現役の女子高生が起業したことをニュースで知りました。それで『高校生になったら起業できるんだ』と頭に刷り込まれ、高校生になったらすぐに会社をつくろうと決めたんです」

つづきは、下記日本政策金融公庫HPをご覧ください。

「襷」 TASUKI 5TH ANNIVERSARY BOOK

高校生ビジネスプラン・グランプリ 2013-2017

https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/memorial\_magazine.html

## 大学生観光まちづくりコンテストとは?

## http://gaku-machi.jp/

「大学生観光まちづくりコンテスト」とは、同運営協議会(事務局株式会社JTB総合研究所)」が主催する大学生を対象にしたコンテストで、実践的教育の場として、観光まちづくりを通じた地域活性化プランを競う取り組みです。

関東地方整備局では、関係自治体と関係団体の協力を得て、山梨ステージと多摩川ステージを誘致し、多くの学生に河川と河川沿川のまちの魅力を知ってもらうキッカケにしつつ、提案プランを連携のキッカケに産官学金連携を 意識して取り組みを支援しています。

河川を活かした観光まちづくりに寄与する動きに合わせて、「かわまちづくり」につなげ、関係者及び関連施策と連携しながら事業化も視野に入れています。↓

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/river chiiki00000052.html

「<mark>関東RiverCycRingステージ」</mark>はRiverCycRingProjectに参加自治体を対象地域に、川と街をつなぎ、地域 と地域をつなぎ、<mark>~旅して楽しい、みんなでつくるRiverCycRing~</mark>をコンセプトに学生からの提案プランを 産官学金の協力を得ながら地域活性化に資する取り組みを支援していくステージ↓です。(開催予定)

http://gaku-machi.jp/outline-%20kantou/

### 2018年度エントリー数(4ステージ開催) 90大学 234チーム 1,225名



#### あいさつ

我が国の「観光立国」推進において、観光による国内外の交流人口の拡大や日本独自の文化財・伝統芸能等の文化遺産の活用は、地域経済活性化や雇用機会増大の切り札であると言われており、観光立国を担う人材の育成が不可欠となっています。特に、従来の「観光」の枠にとらわれない自由な発想ができる若者のアイデアが期待されています。一方、大学生の就職難が社会問題化する中で、実践的な能力を育成する講義・ゼミやキャリア開発支援プログラムが大学教育で重視されるようになり、フィールドワークやインターンシップ等を通じて自分磨きに積極的に取組む学生も増えてきています。

「大学生観光まちづくりコンテスト運営協議会」は、このような状況を鑑み、大学生および大学教職員の方にむけた実践的教育の場として、観光まちづくりを通じた地域活性化プランを競う『大学生観光まちづくりコンテスト』を企画しました。このコンテストでは、全国の大学生を対象に、現地でのフィールドワークを通じて、新しい観光まちづくりのアイデアを創造してもらいます。普段、大学で学んでいる知識・スキルを実際に活用して、地域に埋もれた資源を掘り起こし、新たなビジネスが地域で産まれ、地域経済が活性化するような、観光まちづくりプランが提案されることを期待しています。

大学生および大学教職員の皆様におかれましては、是非、本コンテストへの参加をご検討くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

大学生観光まちづくりコンテスト運営協議会

2019年度 開講

## 観光まちおこしワークショップ

東京国際大学 × 株式会社JTB

観光まちおこし ワークショップ 入門  $GLOBAL \times LOCAL = "GLOCAL"$ 

観光立国を担う人財を育成する実践型授業が開講します!

月曜3限・火曜2限・金曜2限 全学部・全学年対象

## 観光を活用した 地域活性化

観光まちおこし ワークショップ

実践 🗛

観光まちづくり

### 小江戸かわごえ グローバル化

観光まちおこし ワークショップ

海外へ向けた情報発信

# 地域課題解決型地域再生プラン

観光まちおこし ワークショップ

実践

ソリューション提案

授業で学んだ内容をもとに実践型 プロジェクトにチャレンジ!

### 全学部・2年生以上対象 集中授業形式で新規開講!

春学期:観光まちおこし プロジェクト A 秋学期:観光まちおこし プロジェクト B

全国の大学生と競い合う 大学生観光まちづくりコンテストへ参加 企業と連携して、

地元川越の地域活性化事業を経験

通年:観光まちおこし プロジェクトC

- ・国土交通省 京浜河川事務所/公益社団法人 河川財団/川崎市 等と連携した、 多摩川をフィールドとする産学官連携のプロジェクト型授業
- ・他地域の地域活性化を題材としたプロジェクト型授業

### 株式会社JTB <sub>企画</sub> COC科目群

COC (Center of Community)とは 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」 東京国際大学「小江戸(川越)まちおこし」グローカル人財育成 のための地域連携型教育研究拠点づくり 活動 事例1

#### 観光まちおこしプロジェクトA 大学生観光まちづくりコンテスト2018 株式会社JTB×TIU学生チーム



全国各地から大学生が集い、観光まちづくりプランの アイデアを競うプレゼンテーションの全国大会。 全国4会場で開催され、全体で90大学234チーム。 合計1.225名が参加。

TIUからはCOC授業で観光まちおこしを学んだ9名の学生が出場し、1チームはポスター発表、1チームは本選に出場。

#### 「本選出場プラン

#### ドナウ川をモチーフに、フローティングハウスを使用した新しい多摩川の活用方法

「フローティングハウス」と呼ばれるヨーロッパでは一般的な、水に浮かぶ建造物を多摩川に導入し、それをレンタルオフィス、商店、宿泊施設として活用することを提案。災害時に橋が使用できなくなった際には、フローティングハウスによって人や物を移送できるシステムを考案。

日本には今まで無かった新しい試みにより多摩川の賑わいを創出する。多摩川ステージ総合8位。

----大学生観光まちづくりの活動記録

5月 面接・テーマ設定 6月 フィールドワーク計画 8月 企画書・パワーポイント作成

9月 プレゼンテーションの練習

7月 フィールドワーク調査

本選・ポスター発表

活動 事例2 観光まちおこしプロジェクトB 川越コレクション

(株)まちづくり川越×TIU学生チーム

#### 川越の特産品の掘り起こし、PRイベントの実施

まちづくり川越が運営する小江戸蔵里の物産展コーナーから、 川越の生産物や加工品を学生目線で掘り起こし、商品プロ モーションを展開。学生が生産者と打合せを重ね、コラボ商 品の開発や試食、体験コンテンツなどを提案。

多くの来場者を集め、商品や生産者の知名度向上に貢献した



活動 事例3 観光まちおこしプロジェクトC **産学官連携プロジェクト** 

国土交通省京浜河川事務所×河川財団×川崎市×TIU学生チーム

#### 地産地消型エネルギー実現に向けた産学官連携の取組

観光まちづくりコンテスト2017において東京国際大学 COCチームが提案した「多摩川循環型⊿(デルタ)システム」が ミズベリング賞を受賞。多摩川の堤防の刈草からペレットと呼ばれる 燃料を作り、ペレットを燃料としたペレットボイラーの活用による 省エネを含めた地域循環型の観光まちづくりブランを提案。

国エネを含めた地域循環室の観光まらり、リノブノを提集。 2018年度より産学官が連携し実現化に向けた取組をスタート。 初年度はペレット製造や産学官連携プロジェクト会議、 川崎市地元小学校との交流会を実施した。



履修 登録

- ・プロジェクトA・Cは2年生以上が対象、プロジェクトBは1年生も履修可能 (入門、実践A、B、Cいずれか一つを履修済み、または履修中が条件)
- ・履修については志望理由書の提出、教職員との面接通過が必要
- ・詳細は追って、POTIに掲載予定

## 水辺利用の可能性を創造する

RiverCycRingProject発起人

## 佐藤 寿延 Sato Hisanobu

現:国土交通省関東地方整備局河川部長。

湯西川ダム事務所長時代

H14年日本初の国産水陸両用バス(国産第1号)を導入 「水陸両用バスを活用したダム観光活性化実験の評価 -ダムとダム湖は観光活性化の起爆剤になり得たか」著者 http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr\_content/content/000644852.pdf

○ミズベ(地域)活性化の始め方 ミズベリング勉強会(4)

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river 00000412.html

~公務員の地域活性化の実践~









〇河川に経済圏を作ろう!水辺で起業?!ミズベリング勉強会(6)

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river\_00000420.html

<地域からのメッセージ> 関東RiverCycRingステージ

River Cycling Project = [River + Cycling + Ring] Project

~ 旅してたのしい! みんなでつくる! River CycRing ~

関東全域には河川沿いにサイクリングロードがたくさんあります。

それらのサイクリングロードは"信号もなく、一般車も通らない"だけが魅力ではありません。 河川の周りには、すばらしい"生態系・歴史・にぎわい・癒やし"もたくさんあるんです。

そんな"川の魅力"を、ゆっくり・たのしく発見できるサイクリングロードを、 みんなでつくっていく『River CvcRing Project』に参加してみませんか?

## 水辺の様な「公共空間」を使って稼ぐ

関東RiverCycRingステージアドバイザー

## 保井 美樹 Yasui Miki

法政大学 現代福祉学部 · 人間社会研究科 教授 博士(工学) 専門分野

エリアマネジメント、都市・地域経営、地域自治、公民連携等



2012年~現在 法政大学現代福祉学部 • 人間社会研究科 教授(東京)

日本学術会議連携会員(2018〜現在) 全国エリアマネジメントネットワーク副会長(2016.7

~) 国土交通省国土審議会土地政策分科会、同分科会企画部会委員(2015~現在)

国土交通省社会資本整備審議会・歴史的風土分科会都市計画部会、新たな時代の都 市マネジメント小委員会委員(2014〜現在)、国土交通省多様な主体による協働・広域連携推進会議 委員(2008〜現在) 法政大学保井美樹研究室HPhttp://yasuilab.ws.hosei.ac.ip/wp

### 2016 水辺から始めるエリアマネジメントって?ミズベリングテーマ会議より

https://mizbering.jp/archives/1993

エリアマネジメントとは、「地域の価値を維持・向上させ、 また新たな地域価値を創造するために行われ、内発的で自律 的に継続できる地域経営の仕組みづくり」のこと。

<u>「公共空間を使って稼ぐ」ことが、自律的なエリアマネジメ</u>ントに直結しているのです。

エリアマネジメントは、まちづくりの新しいかたちです。行政が市民主体のまちづくりを主導するときには、「参加と協働」という言葉がよく使われます。それに対し、エリマネでは「自立」することが重要。



ミズベリング的、エリアマネジメントのあり方とは?

<u>エリマネは関係部署を全部集めて、関係者の温度を合わせる</u>ことからはじめます。そこに、 生活者の生活感覚をのせていくことが大事です。

みなさんが生活者として持っている総合力、お財布管理力、井戸端会議力というものを忘れないで、それぞれの仕事場に戻ってもらえたらすごく大きな力になるのではと思います。

### 2016年 第1回アドバイザリーボード会議

https://mizbering.jp/archives/20645

「行政はプロバイダー(提供者)からイネイブラー(実現者)へやれる環境づくりに。市民はもっと楽しいんじゃないかという感じに、ミズベリストがリスクをとってやるぞというような関係になればいいなと。」



### 2018年 河川法改正20年インスパイアプログラム『水辺の時代を開く』

https://mizbering.jp/archives/21645

●テーマ3「水辺が開く価値とは」 次に目指して行きたいのは、「水とまちが人でつながっていくというサイクル」だと話す保井教授。

「今までタブーだった"稼ぐ"という行為が随分受け入れられてきた。それを使っていかに水辺を含めたまちを作っていくか」



## かわまちづくり支援制度

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04\_hh\_000015.html

「かわまちづくり」支援制度実施要綱の改定について ~水辺の賑わいによる地域活性化のために民間事業者の方々の知恵・ノウハウ・アイデアを積極的に活かします~

「かわまちづくり」とは、地域活性化のために景観、歴史、文化及び観光基盤などの地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村及び地元住民と河川管理者の連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す取組みです。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo02\_hh\_000013.html

民間企業等の河川敷地占用許可期間の延長 ~民間企業等への河川空間の開放を促進します~

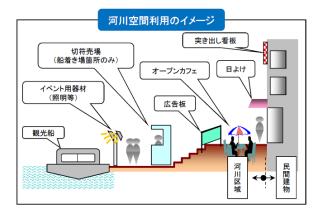
国土交通省では河川敷地の占用許可制度の特例を改正し、 民間企業等による占用許可期間を「3年以内」から「10年以内」へと延長することとしました。 (平成28年6月2日施行)

これにより、事業をより安定的に経営していくことが可能となり、民間企業等による 河川敷地の利用が 促進され、水辺のにぎわいづくりが一層進む効果が期待されます。

#### 特例が適用される一定の要件

- ▶ 特例を活用する区域、占用施設、占用主体について地域の合意が 図られていること。
- ▶ 通常の占用許可でも満たすべき基準に該当すること。(治水上及び 利水上の支障がないこと等)
- 都市・地域の再生及び河川敷地の適正な利用に資すること。







http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo05 hh\_000042.html

河川防災ステーションを新たな賑わいの場に ~市町村等と連携して平常時の利活用を推進~

国土交通省では、市町村等と河川管理者の連携を強化し、 地域の防災力の強化や水防災意識の向上を図るため、要 綱を改正し、河川防災ステーションにおける平常時の賑わ いづくりを一層推進することとしております。



#### 〇H29年度 今年のかわまちづくり全国会議は、観光まちづくりがテーマ

https://mizbering.jp/archives/21856

- ○平成28年度 かわまちづくり全国会議 <a href="http://www.rfc.or.jp/ivent28">http://www.rfc.or.jp/ivent28</a> kawamachi.html
- 〇平成27年度 かわまちづくり全国会議 <a href="http://www.rfc.or.jp/ivent27\_kawamachi.html">http://www.rfc.or.jp/ivent27\_kawamachi.html</a>
- 〇「かわまちづくり」の効果と課題に関する基礎的研究 リバーフロント研究所

http://www.rfc.or.jp/sozai/result/ivent/H28/houkokukai/5.houkokukai2016.pdf

## 資源としての河川利用の高度化に関する検討会 「課題の整理と進めるべき方策」

http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai blog/shigenkentou/index.html

#### 【進めるべき方向性・方策】

民間による水辺での事業参入を促し、民間の資金やノウハウを活用した河川敷地の有効利用を一層促進すべき。

そのため、適正な河川利用について検討しつつ、河川敷地占用許可準則を改正し、営業活動を行う事業者等の占用許可期間を公的主体と同程度にまで延長することが効果的である。

水辺を活用したい人々の取組みを積極的に支援すべき。

そのため、全国における河川空間のオープン化の多様な取組事例をモデルケースとして紹介するとともに、取組みを支援するための窓口の周知などを行うことが効果的である。

まちづくりと一体となった水辺整備など行政の施策を推進すべき。そのため、利用者にとって快適で安全な水辺空間を創出する「かわまちづくり」支援制度の活用などを積極的に進めることが効果的である。

多様な主体間の連携を促進する制度・運用の改善に努めるべき。特に、「かわまちづくり」支援制度による民間連携を進めることが効果的である。

あわせて、民間、自治体、個人等に対し、「ミズベリング・プロジェクト」との連携などによるサポートを行うことが効果的である。

また、協議会など水辺の利用を推進する主体が法人格を取得することも有効である。

### 【進めるべき方向性・方策②】

### 魅力ある水辺空間の創出

✓ 民間事業者の 占用許可期間 を延長

(河川敷地占用許可 準則の改正)

民間による河 川敷地の有効 利用を促進 まちづくりと 一体となった

水辺整備を

推進

/ 「かわまちづく り」支援制度の 活用



水辺を活用したい人々の取組を積極的に 支援 多様な主体間 の連携を促進 する制度・運 用の改善

- ✓ 「かわまちづくり」支 援制度による民間連携
- ✓ ミズベリング・プロジェクトとの連携

✓ 全国の多様な 取組事例の紹介

✓ 行政支援窓口の周知

## http://www.mlit.go.jp/river/riyou/main/kasenshikichi/index.html

- •河川敷地占用許可準則について
- •河川空間のオープン化活用事例集(PDFファイル: 15.2MB)
- •河川敷地占用許可準則に例示していない施設の占用許可の事例について(PDFファイル: 315KB)
- ●工作物設置許可基準(PDFファイル: 152KB)

#### いま、なぜ、「生産性革命」なのか

我が国は、現在、人口減少社会を迎えていますが、潜在的な成長力 を高めるとともに、新たな需要を掘り起こしていくため、働き手の減少 を上回る生産性の向上等が求められています。また、産業の中長期的な 担い手の確保・育成等に向けて、働き方改革を進めることも重要であり、 この点からも生産性の向上が求められています。

社会全体の生産性を高め、人々の成長期待を高めることができれば、 企業の設備投資や賃上げ、さらには個人消費の拡大が促されます。これ が一時的な需要の喚起にとどまらない持続的な経済成長につながり、さ らにその成果が働く人に分配されることによる好循環が期待されます。

こうした観点から、国土交通省では、平成28年を「生産性革命元 年 | と位置付け、同年3月に「国土交通省生産性革命本部 | を設置しま した。先進的な取組として20の「生産性革命プロジェクト」を選定し、 平成29年を生産性革命「前進の年」として、これらのプロジェクトの 更なる具体化に取り組んできました。

さらに、平成30年を「深化の年」と位置づけ、これまでの取組を更 に具体化・強化するとともに、「小さなインプットでもできるだけ大き なアウトプットを生み出す」という生産性革命の基礎にある考え方をあ らゆる政策分野に浸透させる方針です。

今般、「深化の年」の取組として、新たに11のプロジェクトを追加 しました。今後、「生産性革命プロジェクト31」の各施策の更なる深 掘りに努めていきます。

> 「社会のベース」の生産性を 高めるプロジェクト

「産業別」の生産性を 高めるプロジェクト

「未来型」投資・新技術 で生産性を高める プロジェクト



することで、地域の「儲ける力」を向上させるとともに、民間開発を促進。

~官民が連携して河川空間を活用することで、地域の経済活動・社会活動の生産性を向上~

#### 水辺の利活用による地域活性化

#### 施策

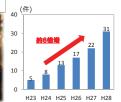
・民間事業者が河川敷地を活用することで、サービス産業 (カフェ、レストラン等)や観光産業のビジネスチャンスを

▶河川管理者は<u>民間事業者が参入可能な箇所の提示</u>な どの積極的な取組みを全国に展開することにより、民間 事業者の参入をより一層促進し、地域の賑わいを創出



河川敷地にカフェ、レストラン等を設置

効果(例) 大阪市 道頓堀川

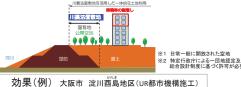


平成23年3月に河川敷地占用許可準則を改正した結果 河川敷地内のオープンカフェ設置件数が約6倍増加

#### 民間事業者による河川敷地の一体的な活用 ~高規格堤防の整備~

高規格堤防の整備により生じた川裏側の堤防法面敷地 (川裏法面敷地:下図参照)について、新たに高規格堤防整 備と合わせて事業を行う民間事業者を占用者とし、利活用

▶当該民間事業者が、占用地である川裏法面敷地を開発面 積に含め緑地等(公開空地※1)にすることにより、容積率の 割増し※2がされ、民間開発を促進





川裏法面敷地等を公開空地として活用し、容積率を25%割増しで共同住宅の供給 行うとともに、緑地空間として整備することにより良好な住環境を提供